

事故事例に学ぶ

22

交差点の事故



交差点右折時に自動二輪に衝突した「右直」事故

事故の概要

発生状況

日 時：平成15年9月某日午前7時40分頃

天 候：晴れ

発生場所：横須賀市内の交差点

道路状況

片側二車線の国道と片側一車線の市道が交わる信号機のある交差点

事故の当事者

運転者A(4トントラック): 27歳、男性

会社員B(大型自動二輪車): 29歳、男性

被害状況

A: 損害僅少

B: 左大腿骨骨折、頭部打撲等 全治8か月

示器を出し、交差点中央付近で右折のタイミングを待っていた。

対向車線は、通勤時間帯は常に渋滞する路線であり、事故当時も既に交差点の直近まで渋滞が伸び、対向第一車線の大型トラック、第二車線の普通乗用車は交差点手前で一旦停止し、後続車両も続いて停止状態となった。

Aは「右折可能である」と判断し、右折を始めたが、大型トラックの陰から直進してきたBの大型二輪車と自車の左前部で衝突した。

Bは、衝突の弾みで転倒し、二輪車とともに滑走して、信号機の支柱に激突し重傷を負った。

事故の原因

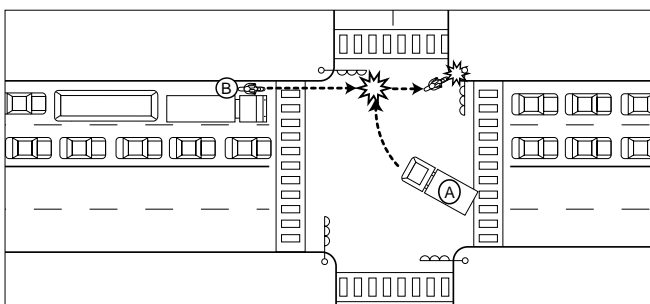
Aは右折する際、大型トラックの後方には乗合バスが続いている状態で、右前方の「死角」は長くなっており、徐行進行または一旦停止するなど、十分に注意しながら右折すべきであった。しかしAは交差点手前で車両が停止しているのを見て、他に交差点に進入する車両はないものと安易に思い込み、安全確認をしないまま一気に右折したことが事故の第一原因である。

一方、Bにも停止車両等で前方および側方の視界が遮られた状態であったにもかかわらず、右折車両を予測することなく、安全確認を怠り、高速度のまま交差点に進入した過失が問われる。

対二輪車事故の実態

平成14年度当組合の対二輪車事故発生状況(人身)

総件数	対二輪車	発生率
788件	81件	10.3%



事故状況

横須賀市内の運送会社に勤めるAは、運転歴が6年で、3年前に追突による軽微な人身事故があったものの、以来無事故の運転者であった。

事故当日は、鋼材を建築現場に搬入するため、出発地点から約3キロ走行し、事故現場となった交差点にさしかかった。

交差点の信号は青であったため、右の方向指

過去5年間の死者数は93人で、そのうち「対二輪車事故」における死者が20人であり、全体の21.5%を占めている。

対二輪車事故防止の安全指導

①交差点の「右直」事故

交差点を右折する車と対向直進車との事故形態を一般的に「右直」事故といいます。

交差点を右折する際、対向直進車には常に注意を集中する必要がありますが、この事例のような大型トラック等の陰から直進中の二輪車と衝突するケースは、事故の多発パターンとなっています。

こうした事故の背景には、

- ・対向車線が停止状態という安心感から、つい安全確認を怠る
- ・直進車より早く右折しようという焦りから二輪車の存在を見落とす
- ・二輪車の速度を過小評価し、右折のタイミングを誤る

等が考えられることから、右折の際は、最徐行し、状況により一旦停止しながら、安全確認することが必要であり、対向車をやり過ぎてから“ゆっくり”といったゆとりも必要です。

また、対向車から「先に行くよう」に合図されたことを「右折しても安全」と判断して事故になる、いわゆる「サンキュー事故」も多いことから、死角部分には必ず車が存在することを意識して、安全確認を習慣づけることが必要です。

②左折時の「巻き込み」事故

大型トラックが交差点を左折する際には、内輪差が大きく、一度右に大きく膨らんで左折しなければならないため、二輪車を巻き込む危険性があります。

このような巻き込み防止のため、「キープレフト」の原則を守り、できるだけ道路の左側によって走行し、二輪車の併進を避けなければなりません。もし併進中の二輪車があった場合には、二輪車を先行させてから左折することが重要です。

また、二輪車の存在を見落とししたり、速度の見込み判断を誤ったりするおそれがあるため、左折するときは、一旦停止か、あるいは

最徐行しながら、ミラーだけでなく、可能な限り自分の目で左側方の安全を確認し、徐々に進行することが大切です。

③出合い頭事故

信号機のない交差点では、トラックと二輪車による出合い頭の事故が多く発生しています。「出てこないだろう」という安易な思い込みや、「先に通過しよう」といった焦りの気持ちは禁物です。

二輪車は、見通しの悪い交差点で飛び出したり、一時停止を守らなかったり、一方通行を逆行するなど、ルール無視の危険な行動に出ることもしばしばあります。交差点では優先順位の確認、徐行、一時停止などを確実にを行い、左右の安全を確認して進行しましょう。

④夜間事故

夜間は視界が悪くなり、また、スピード感が鈍り速度超過になりがちなため、二輪車に限らず、横断中の自転車・歩行者など「小さいもの」を見落としがちです。

昼間より更に慎重に運転し、少しでも危ないと感じたら、まず速度を落とすことが大切です。

見通しの悪い交差点やカーブの手前では、前照灯を上向きにするか点滅させ、二輪車等に交差点への接近を知らせましょう。また、薄暮時にも早めにライトを点灯し、自分の車の存在を知らせるようにしましょう。

二輪車の行動特性

二輪車にはその構造上、次のような行動特性があります。

- ・バランスを失いやすく転倒しやすい
- ・車体が小さいので軽視されやすい
- ・広い範囲を見にくい
- ・技量に個人差が大きい
- ・進路変更をひんばんに行う

対二輪車事故を防止するために、このような二輪車の行動特性をよく理解し、併進したら「先行させる」、直前に進路変更してきたら「離れる」、交差点で出合ったら先を「譲る」など、ゆとりをもった“防衛運転”に心掛けましょう。